

来日した海外天文学者



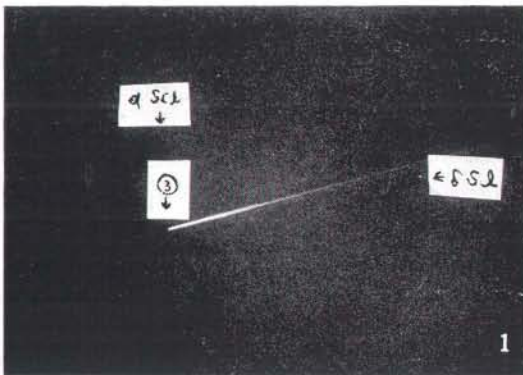
Dr. S. F. Smerd

2月14日交換教授としてオーストラリア国立科学研究所から来日。東大理学部天文学教室でプラズマ物理学につき講義を行なった。3月31日帰国。



I. Scalise, Jr.

昨年4月ブラジルから日本に留学。大阪外語大で半年間日本語を学んだ後、東大聴講生となり電波天文学を勉強している。寿歌里世と自ら書くように日本語はなかなかうまい。

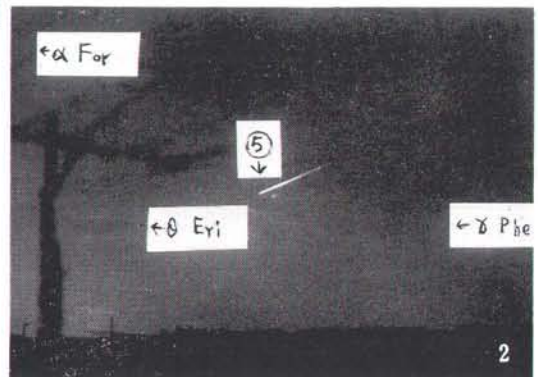


20時44分36秒~40秒

写真に撮影された人工衛星の落下

京都市の神園泰比古氏の撮影されたもの。露出4秒。詳細は本文記事(108頁)を参照されたい。③、⑤の定義も本文中にある。

20時44分55秒~59秒



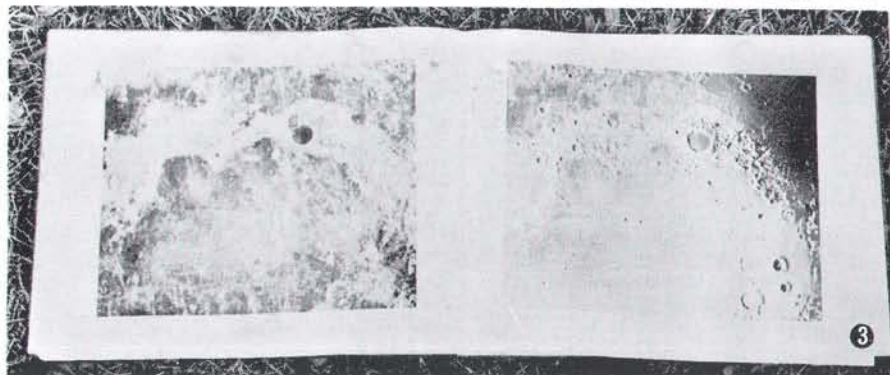
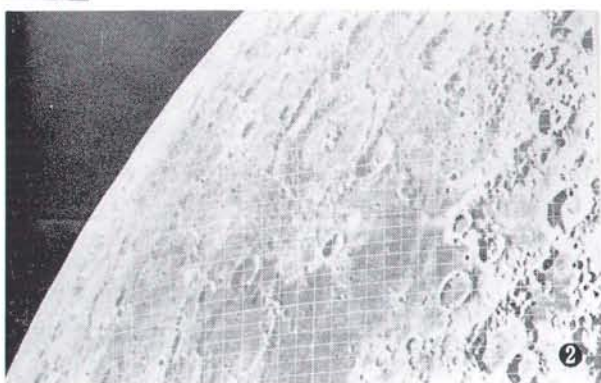
最近発行された月面図のいろいろ



最近是非常に多くの月面図が発行されている。本来ならば新刊紹介の欄でくわしく紹介すべきであるが、この種のものには目で見た方がよくわかるものなので、特に本欄を借りてそのうちいくつかのものを紹介してみよう。なお、ここに紹介しないもので、重要なもの（たとえば米空軍の月面図など）もあることをおことわりしておく。

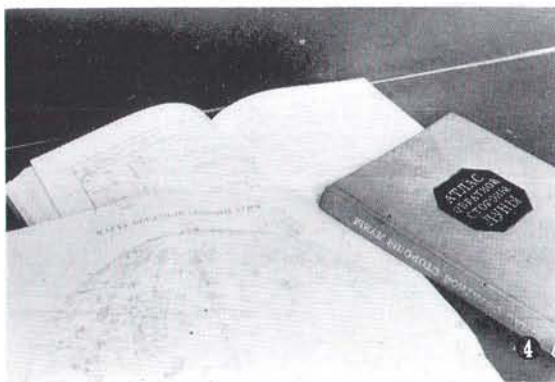
①は1964～5年に月の表面の近接撮影を行なった、Ranger 7号と8号の写真をまとめたもの。7号のAカメラ、Bカメラ、Pカメラの写真と、8号の写真と、（おのおの約200枚ずつ）箱におさめたもの。箱一つで約10kgの重さがある。

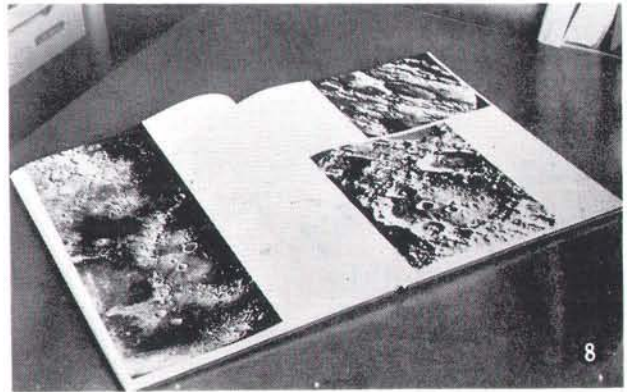
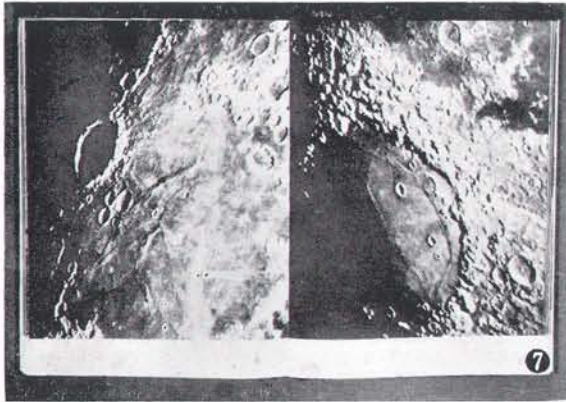
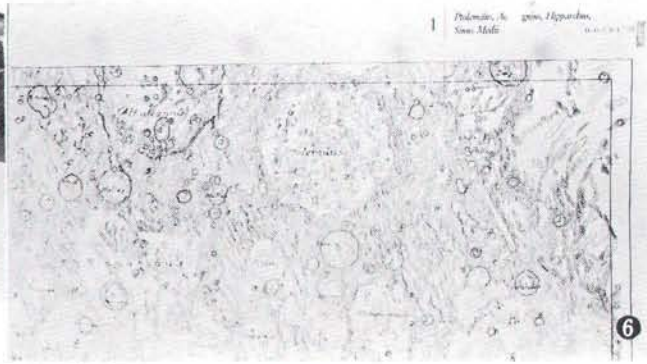
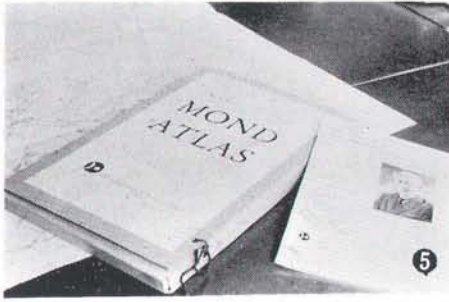
G. P. Kuiperの写真月面図については、1961年5月号の本欄で紹介をしてあるが、これに便利な付録がつけられた。②は、この写真の上に、月面座標の線を書きこんだもので、これでいろいろの対象物の座標がよみやすくなった。



③はやはりKuiperの写真月面図の付録で、月面を垂直方向から見た形に歪みを修正したもの。この図は雨の海の北岸であるが、プラトーや虹の入江がほぼ円形に見えることに注目されたい。

④は1959年に月の裏側を撮影したソ連の宇宙空間ステーションの成果をまとめたもの。英訳本もある。最近ソンド9号やルナー・オービターの活躍で、月の裏側も大分明らかにされたが、その成果をまとめた月面図は現在までにまだ出版されていないようだ。



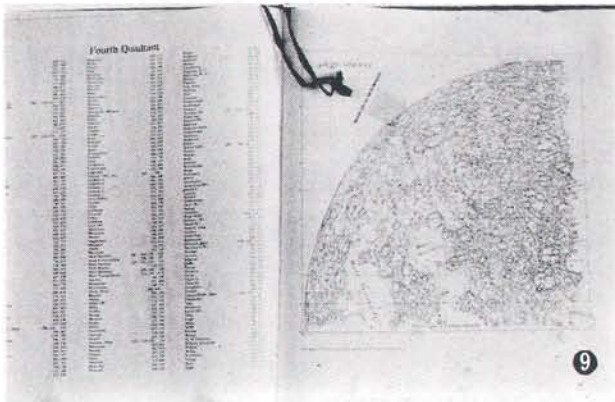


⑦は Z. Kopal による写真月面図で、前記米空軍の月面図を作るもととなった写真である。主に Pic du Midi 天文台で撮影したもの。

⑧は“月面の地図”というタイトルはついているものの、月面写真を主体とした、解説的読物といった感じが深い。Vincent de Calataÿ 著。

左頁の月面図は、いずれも大規模な国際的、国家的組織によって作られたものであったが、これに対して、もっと小規模な事業の結果、作られた月面図を紹介しよう。

⑤は P. Fauth による月面図で、⑥のような等高線様の線で地形を表現している。主な図は総数 28 枚で、これにいくらかの補助図がつく。帙の中におさめられている。仕事の綿密さは一驚に値する。



⑨は V. A. Firsoff の月面図。4 象限にわけた、線画風の月面図で、レゾーの丸いスケールがついている。月面の眼視観測者が、観測室にそなえておくのには、手頃であろう。